JIVRI

Civil Society Forum

Vol.12

＜ 特 集 ＞

第13回東アジア市民社会フォーラム（日本大会）開催報告

ボランティア活動国際研究会
JAPAN INTERNATIONAL INSTITUTE FOR VOLUNTEERING RESEARCH

第13回東アジア市民社会フォーラム開催報告

●はじめに

東アジア市民社会フォーラムは、日・中・韓3カ国の相互理解と融和を通して、東アジア地域の平和と繁栄の実現を目指す国際交流フォーラムである。2009年以降、日中韓の市民社会の発展を目指すべく、毎年各国が持ち回りで開催している。

今回開催した第13回フォーラム(11月18日開催)は、第11回、第12回フォーラムに続き、新型コロナウイルス感染症の拡大が収束されなかったことから、動画収録公開型(一部オンライン会議形式)による開催となった。今回は各国から117人(名簿ベース:日本側31人、韓国側42人、中国側39人、その他3人)が参加。テーマは「市民社会組織による子ども支援」とし、子どもの貧困、児童虐待、子育て問題などを取り上げ、各国の子どもが置かれている状況、子ども・子育て支援制度、市民社会組織やコミュニティの取り組みなどについて事例共有、意見交換した。

●各国からの挨拶

日本側からは主催国を代表し、公益法人協会の雨宮理事長から、「日中韓3カ国の子供をめぐる多くの問題は、角度や方向性が違っても共通するところがある。社会情勢が混とんとしている中で、文化や歴史、民族を超えて、我々の将来を担う子どもたちが、等しく、豊かに生活できるよう知恵を出し合うのは重要なこと。日中韓3カ国の「子ども」をめぐる様々な発表が、大きな成果に繋がるよう心から望む」との挨拶があった。

中国側からは、中国国際民間組織協力促進会副理事長の王香奕(Xiangyi Wang)氏から、「本フォーラムを通じて3カ国の非営利組織が、児童福祉支援の分野で政策論議と実践経験の交流を深めることで、このプラットフォームならではの効果を発揮していき、また、この東アジアの非営利組織間の交流がもたらすブリッジング効果も活用していきたい」との挨拶があった。

韓国側からは、韓国ボランティアフォーラム会長の南英燦(Young-Chan Nam)氏から挨拶があり、「子どもは国の未来。彼らを守り、育み、教育することは、未来への投資である。経済が発展し、子どもの保護・支援政策における公的セクターが拡大したとはいえ、市民社会組織がケアすべき部分もある。このような交流を通じて、子ども支援に係る政策と実践の分野で、我々3カ国の市民社会組織のレベルアップを図れたらと思う」と述べられた。

●基調講演

次に、日中韓において子どもが置かれている状況、制度的支援の現状、市民社会組織の取り組み状況等について、各国から基調報告があった。

韓国側からは、京畿大学社会福祉学部教授の金亨謨(Hyung Mo Kim)氏から、①市民社会組織によるチャイルドサポートの歴史、②児童福祉活動の発展過程と市民社会組織による児童支援の活動状況、③韓国における市民社会組織によるチャイルドサポートの現状、そして④韓国における市民社会組織による児童支援の今後の方向性について報告があった。

中国側からは、北京市青年法律援助研究センター所長の佟丽华(Tong Lihua)氏から、1991年に制定(2006年、2020年改正)された中華人民共和国未成年者保護法の内容および効果についての報告があった。同保護法は家庭保護、学校保護、社会保護、司法保護の4つのセクションから構成され、2006年の法改正時には、新しい時代の要請に応え、政府保護、インターネット保護が追加されており、政策的には中国における未成年者保護という台木の発展に大きな影響を与えているとのことであった。

日本側からは、キッズドア理事長の渡辺由美子氏から、日本における子供の貧困の現状と国の取り組み、新型コロナウイルス感染症禍での困窮子育て家庭の状況、経済格差と教育格差の課題に取り組むキッズドアの活動等について紹介があった。「日本は世界一のワーキングプアであり、この影響を受けた子供の貧困は社会制度の欠陥によるもの。低所得者世帯の子どもは十分な教育を受けられず学力低下に繋がり、進学や就職にも影響をきたすこととなり、結果的に次の世代も同じ道を辿るという「貧困の連鎖」に陥る傾向にある。その「貧困の連鎖」を断ち切るために、未来への投資という考えのもと、経済資本(学習・生活支援)、文化資本(社会見学や課外活動)、社会資本(子供の見守りなど)の提供を実施している」と報告があった。

●事例報告

続いて、市民社会組織による子ども支援の取り組みについて、各国から事例報告があった。

韓国側からは、韓国児童虐待防止協会会長の李培根(Bae geun Lee)氏から、同協会の被虐待児保護・支援の取り組み(児童虐待の理解と予防のためのセミナー、キャンペーン等の開催、児童虐待相談所の設置、虐待事例の通報受付、児童権利相談員の要請など)、そして30年間培った経験やノウハウを広めるキャンペーンについての紹介があった。このキャンペーン活動の成果として、全国的に①家庭や教育現場でのしつけと装った児童虐待の防止、②児童虐待の早期発見と再発防止、③虐待を受けた子供たちへの支援強化に繋がったとのことである。

そして、崇実大学社会福祉学科教授の鄭茂晟(Moo sung Chung)氏からは、保護終了児童(19歳以上)を支援する目的で設立された市民社会組織「クロスロード」の取り組みについて紹介があった。「政府の支援プログラムは経済支援、住宅支援、学費支援、就労支援の分野に限られているが、同組織は心理的・精神的自立や社会経済的自立を目指した包括的な支援を継続して行っている。具体的には、保護終了児童を対象に、心理的・精神的サポート、日常生活支援、職業相談などを行っており、多くの成果が上がっている」とのことであった。

中国側からは、北京市幸福家庭科学教育・公共福祉推進センター理事長の白亜琴(Bai Yaqin)氏から、中国で実施されている「白衣の天使講師団」および「愛で守る福祉プロジェクト」の活動事例の紹介があった。「白衣の天使講師団は5,000人の講師を養成し、妊婦を含む親子を対象に、心の健康、身体の健康、家庭教育、関連法制の理解、思春期の健康教育などをテーマに全国で年間2万回の講演を行っている。問題を抱えた子どもには、問題を抱えた家族がいる。家族が幸せで健康であれば、家族も国も健全で発展する。講師の養成事業および親子に対する教育事業は、健全な家庭環境の発展に寄与している」とのことであった。

また、四川省眉山市の青神県農村婦女児童協力発展促進会会長の涂梅(Tu Mei)氏からは、青神県婦女連合会によって、「すべての母親に希望を持たせ、すべての子どもに夢を実現させる」という原点の志を堅持し、開設された青神県婦女児童発展センターに関して、「同センターは、貧困に苦しむ児童への奨学金の支給、女性育成、児童ケア、子供の健全な成長を促す家庭教育等の推進事業を実施している。現在では、公安機関、検察機関、人民法院、民生部、衛生教育部などと連携して反DV同盟を形成、児童虐待への対応も行うようになった」との報告があった。

最後に、日本側から豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長の栗林知絵子氏から、2012年に設立された同ネットワークの取り組みについて報告があった。「子どもに遊び場を提供する目的で設置した「プレーパーク」に、「昨日からごはんを食べていない」、「引っ越してくる前は車で暮らしてた」、「高校に行けないかもしれない」などつぶやく子どもがたくさんおり、想像もできない環境で成長している子どもたちの存在に気が付いた。そこで、2013年に子ども食堂と無料学習支援をはじめ、2017年に乳幼児親子に対する支援「ホームスタートWAKUWAKU」、子どもの無料宿泊所「WAKUWAKUホーム」のサービスをスタートし、2020年には行政と連携して食糧支援「としまフードサポートプロジェクト」を立ち上げた。こういう取り組みを日本中に広げ、社会変革を促していけたらと思う。」との報告があった。

自立援助ホーム「あらんの家」「ミモザの家」統括施設長の浜田進士氏からは、虐待を受けてきた15歳から22歳の子どもたちを保護、支援する目的で建てたこれら自立援助ホームの取り組みについて報告があった。「2013年以降、生活、就労、就学、そして退去後の支援を続けてきたが、新型コロナウイルスのパンデミックによる虐待件数の増加、就労機会の減少、事件に巻き込まれるなど、子どもたちへの被害は拡大の一途をたどっている。我々は、子どもたちが低学歴による低所得の悪循環を食い止めるため、彼らのSOSを待つことなく、こちらから出かけていく活動を続けている。これからも、いつまでも安心して“ただいま”と言って帰って来られる居場所を提供し続ける。」と述べた。

●レビューセッション

レビューセッションでは、各国から代表者1名が登壇し、各国からの基調講演および事例報告の内容についての感想、そして第14回フォーラムへの期待について述べた。また、司会進行および3カ国語の通訳は、朴梅花(Piao Meihua)氏（東アジア環境情報発伝所事務局長)が行った。

黄浩明(Huang Haoming)氏(中国国際民間組織協力促進会名誉会長、アジア・フィランソロピー研究所所長)からは、韓国からの発表について、「初期段階では国際組織による子ども支援が主流で、その活動が国内に定着し、地元団体の活動に変わっていった点は、中国にも大きな示唆を示してくれた。また、虐待児童の事例、退所した青少年の自立、独立支援などを地域ベースで多方面からの協力を得ながら長期的に行ない、活動にも専門性があり、政策提言による課題解決を行っている点は素晴らしいと思った」と述べた。日本からの発表については、「とても深刻な状況が日本にあることが分かり、市民活動団体が、社会情勢を分析し、新たな課題にも柔軟に対応し、確実に子どもたちが直面した問題、困難を確実に解決につなげる姿は見事であると感じた」とした。

南英燦(Young Chan Nam)氏(韓国ボランティアフォーラム会長)は、「日本における家庭の貧困、子どもの困窮割合の高さに驚いている。政策的な問題または社会構造が生んでいる結果だと思う。社会全体の問題という意識を広げ、この課題に政策的、社会的な観点から解決していってほしい。また、子ども支援は未来の投資であるという話が印象深かった」と述べた。中国の発表については、様々なセクターが互いに補い合いながら社会全体で子ども支援を行っている点、また未成年者保護法もその時代に合った法律に逐次改められている点が素晴らしいとの感想を述べられた。

渡辺由美子氏(キッズドア理事長)は、「中国、韓国も子供たちが厳しい状況にあり、それに対して様々な市民活動や行政が対応している状況を伺うことができ、我々も中国、韓国の取り組みを参考にして、子どもたちに対する支援を充実ていきたいと思った」と述べた。中国の政策、未成年者保護法については1991年

には既にできており、その6大保護の内容も先進的で画期的であると感想を述べた。その上で、来年から子ども基本法が施行され、こども家庭庁の創設が予定されていると日本の状況について説明した。

最後に朴梅花氏から、次回のフォーラムに向けての一言を各登壇者に求めた。南英燦氏からは、「3カ国が経験と知見を共有し、学びあう場であり、今回も有意義な研究発表の場となった。毎回、東アジア市民社会フォーラムが持続的である必要があることを再認識させられる。来年こそは韓国で、対面で会いましょう」と述べた。

黄浩明氏からは、「今回のフォーラムもよい学びの機会となった。来年は対面でフォーラムを開催し、様々な問題について深く議論できればと思う。来年のテーマは「コミュニティにおける公益サービス」または「市民社会組織による障がい者支援」を提案させていただきたい」と述べた。

渡辺由美子氏からは、「社会構造の複雑化により、今後ますます格差が広がり、困難な状況にある人口の割合が高まると思われる。このような状況の中で行う3カ国による情報交換や学び合いは非常に貴重であると感じた。また、中国と韓国との比較で日本の位置づけを明確にすることで、政策提言の観点から強いメッセージを政治家に送れたことがある。政策を発展させる上で他国の事例は非常に貴重であり、今後もこのようなフォーラムを是非継続していってほしい」と締めくくった。

●レビューセッション

最後は、本フォーラムを運営した事務局を代表し、JIVRIの白石から挨拶をさせていただいた。

「我々市民社会組織の人間にとって重要なのは、より良い社会、未来をつくるために、一緒に前を見て進んでいくということ。私が知る限り、少なくとも私たち3カ国は、既にこのような気持ちや考えを持っている。このような思いがあるからこそ、2009年以降この国際フォーラムを継続開催することができたのだと思う。今後も、このアイデアとこのイベントそのものを成長させていき、私たちの明るい未来のために前進していけたらと思う。来年開催される第14回フォーラムのホスト国は韓国。来年こそは対面で皆様とお会いできることを切に願っている」と挨拶し、第13回目となるフォーラムを締めくくった。

最後に、今回のフォーラムは、「日本という殻に閉じこもっていては進展はない。積極的に外と交流を行うことで世界は広がる」ということを改めて感じさせられるフォーラムとなった。

◇プログラム◇

司会進行：白石喜春

◇挨拶
・雨宮孝子(公益法人協会 理事長)
・南英燦(韓国ボランティアフォーラム 会長)
・王香奕(中国国際民間組織協力促進会 副理事長)
◇基調講演
・金亨謨(京畿大学社会福祉学科 教授)
・佟丽华(北京智城法律事務所 所長、北京市青年法律援助研究センター 所長)
・渡辺由美子(キッズドア 理事長)
◇事例報告
・李培根(韓国児童虐待予防協会 会長)
・鄭茂晟(崇実大学社会福祉学科 教授)
・白亚琴(北京市幸福家庭科学教育・公共福祉推進センター 理事長)
・涂梅(青神県農村婦女児童協力発展促進会 会長)
・栗林知絵子(豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 理事長)
・浜田進士(青少年の自立を支える奈良の会 理事長、自立援助ホーム「あらんの家・ミモザの家 統括施設長)
◇レビューセッション
・朴梅花(司会進行・通訳、東アジア環境情報発伝所 事務局長)
・南英燦(韓国ボランティアフォーラム 会長)
・黄浩明(中国国際民間組織協力促進会 名誉会長、アジア・フィランソロピー研究所 所長)
・渡辺由美子(キッズドア 理事長)
◇閉会挨拶
・白石喜春(JIVRI理事長、公益法人協会調査部 主任)

基調講演

金亨謨氏

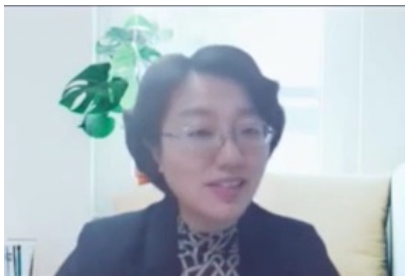
佟丽华氏

渡辺由美子氏

事例報告

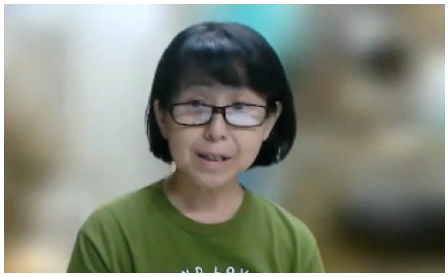
李培根氏

鄭茂晟氏



白亚琴氏

涂梅氏



栗林知絵子氏

浜田進士氏

レビューセッション

オンライン参加下さった方々(参加者表示画面の一頁目のみ表示)

以下のURLから第13回フォーラムの動画を視聴できます。
https://youtu.be/FcRynSK-XXA

JIVRI

JIVRIでは、私たちの活動を支え、後押ししてくださる会員を募集しています。ぜひ皆様の力をお貸しください。会費は、下記の通りです。

□会　費　　３，０００円（年会費）

入会をご希望の方は、下記のメールアドレスにお名前、住所、電話番号および希望する会員区分(個人会員または賛助会員)のどちらかを記入したメールを送付してください。後日、入会申し込みの確認と会費振り込みの依頼をメールにて差し上げます。

入会申込先　email: member@jivri.org

ボランティア活動国際研究会
URL　http://www.jivri.org/index.html

2023. 1発行